



# 2015年12月期 第1四半期財務・業績の概況(連結)

2015年5月7日

会社名 サントリーホールディングス株式会社 URL <http://www.suntory.co.jp>  
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)新浪 剛史  
 問合せ先責任者 (役職名)執行役員 広報部長 (氏名)濱岡 智 広報部 TEL (03)5579-1150  
 TEL (06)6346-0835

(百万円未満切捨て)

## 1. 2015年12月期第1四半期の連結業績(2015年1月1日～2015年3月31日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2015年12月期第1四半期	553,164	14.3	27,060	35.5	22,270	5.5	4,380	△ 51.3
2014年12月期第1四半期	483,986	18.6	19,965	41.6	21,110	67.5	8,998	87.4

(参考) のれん等償却前利益

	営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2015年12月期第1四半期	43,699	65.2	38,909	41.0	18,468	42.8
2014年12月期第1四半期	26,457	32.7	27,602	49.8	12,935	21.7

(注) のれん等償却前利益 = 利益 + M&Aにより発生するのれん、商標権等償却費

	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益	
	円	銭	円	銭
2015年12月期第1四半期	6	41	-	-
2014年12月期第1四半期	13	19	-	-

## (2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	百万円	百万円	百万円	%	
2015年12月期第1四半期	4,405,355	1,126,526	1,126,526	1,126,526	18.9	
2014年12月期	4,536,537	1,190,756	1,190,756	1,190,756	19.4	

(参考) 自己資本 2015年12月期第1四半期 833,228百万円 2014年12月期 882,022百万円

## 2. 2015年12月期の連結業績予想(2015年1月1日～2015年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
通 期	2,650,000	7.9	193,000	17.1	167,000	8.6	50,000	30.3	73	17

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

(参考)

のれん等償却前利益	261,000	20.9	235,000	14.6	108,000	36.5
-----------	---------	------	---------	------	---------	------

EBITDA倍率 2015年12月期(予想) 4.3  
 ※EBITDA倍率 = 劣後債務資本性考慮後ネット有利子負債(借入金+社債-現金・預金他) ÷ EBITDA

D/Eレシオ 2015年12月期(予想) 1.05  
 ※D/Eレシオ = 劣後債務資本性考慮後ネット有利子負債 ÷ 純資産

※ この四半期財務・業績の概況は、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は受けていません。

## 経営成績

### 1.当第1四半期連結累計期間の概況

当第1四半期(2015年1月1日～2015年3月31日)の世界経済は、一部に弱さが見られたものの、全体として緩やかに回復しました。わが国経済においては、個人消費などに弱さがみられましたが、緩やかな回復基調が続きました。

こうした中サントリーグループは、〈飲料・食品〉〈酒類〉の両セグメントを中心に国内外で積極的な事業展開を行いました。当第1四半期の業績は、売上高5,532億円(前年同期比114.3%)、営業利益271億円(同135.5%)、経常利益223億円(同105.5%)、四半期純利益44億円(同48.7%)となりました。

なお、グローバルスタンダードにならぬれん等償却費を除いて計算すると、営業利益437億円(前年同期比165.2%)、経常利益389億円(同141.0%)、四半期純利益185億円(同142.8%)となりました。

#### 〈飲料・食品セグメント〉

サントリー食品インターナショナル(株)は、ブランド強化や新規需要の創造に取り組むとともに、同社グループ全体での品質の向上や収益力強化を図りました。

国内事業では、昨年4月の消費税率引き上げにともなう駆け込み需要の影響で総市場は前年割れと見込まれる中、重点ブランドの強化と新規需要の創造に継続的に取り組みました。

「サントリー天然水」は、“清冽でおいしい水”“ナチュラル&ヘルシー”をブランド独自の価値として訴求しました。「サントリー 南アルプスの天然水 スパークリング」「サントリー 南アルプスの天然水&朝摘みオレンジ」が好調に推移しました。

「BOSS」は、主力商品のリニューアルに加え、ボトル缶コーヒー「プレミアムボス ブラック」を発売し、積極的なマーケティング活動を展開しました。

「オレンジーナ」は、お客様の多様なニーズにお応えし昨年発売した1.2Lペットボトルが寄与したこともあり、販売が伸長しました。

特定保健用食品は、「伊右衛門 特茶」に加え、3月に中味・パッケージをリニューアルした「サントリー 黒烏龍茶」が好調に推移しました。

国際事業では、各エリアにおいて重点ブランドの一層の強化やコスト削減等を実施しました。

欧州では、「Orangina」<sup>オレンジーナ</sup>「Schweppes」<sup>シュウェッパス</sup>「Lucozade」<sup>ルコゼード</sup>「Ribena」<sup>ライビーナ</sup>等の主力ブランドを中心に積極的なマーケティング活動を展開しました。スペインでは、業務用の販売が引き続き好調に推移しました。また、欧州全体での成長に向けて、コスト削減に加え、シナジーの創出などに継続的に取り組みました。

アジアでは、各国において事業基盤の強化や主力ブランドを中心としたマーケティング活動に取り組みました。健康食品事業では、タイにおいて「BRAND'S Essence of Chicken」<sup>ブランドズ エッセンス オフ チキン</sup>の発売180周年を記念したプロモーションを展開しました。飲料事業では、ベトナムでサントリーブランドの展開エリア拡大等に積極的に取り組み、販売が伸長しました。また、マレーシアでは営業体制の構築に取り組み、事業が順調に立ち上がりました。

オセアニアでは、フルコア・グループが主カブランド「V」<sup>ヴィ</sup>の活性化に加え、サントリーブランド商品「OVI」<sup>オヴィ</sup>で積極的なマーケティング活動を行い、販売拡大に取り組みました。

米州では、ノースカロライナ州を中心にペプシコブランドのさらなる販売強化に加え、物流拠点統合に向けた取り組み等、事業効率の改善を進めました。

これらの結果、飲料・食品セグメントの売上高は、2,707億円(前年同期比100.4%)となりました。

#### 〈酒類セグメント〉

ビームサントリー社は、北米や日本において積極的に事業を展開し、前年同期比211%となりました。

北米では、「ノブ クリーク」「ベイゼルヘイデン」「ラフロイグ」をはじめとするプレミアムウイスキーが好調に推移しました。

欧州では「ジムビーム」「ラフロイグ」などが、インドでは「ティーチャーズ」が伸長しました。

さらに、欧米では「響」を中心としたプレミアムウイスキー、アジアでは「角瓶」の積極的なマーケティング活動を展開し、ジャパニーズウイスキーの浸透に取り組みました。

日本では、サントリースピリッツ(株)が前年同期比102%の売上となりました。

ウイスキーは、主要ブランドが好調に推移し、昨年4月の消費税率引き上げにともなう駆け込み需要の影響はあるものの、前年同期比102%と伸長しました。

国産プレミアムウイスキーは、3月に発売した「響 JAPANESE HARMONY」がご好評いただくなど、前年同期比162%と大幅に伸長しました。

輸入ウイスキーは、「ジムビーム」「メーカーズマーク」などが好調に推移し、前年同期比139%となりました。特に「ジムビーム」は、新たなコミュニケーションや飲み方提案がお客様からのご好評をいただき、前年同期比158%となりました。

RTDは、前年同期比109%と好調に推移しました。「-196°C ストロングゼロ」が引き続き好調に推移したほか、2月に発売した「こくしぼり」は豊かな果実感と深みのあるコクにご好評いただきました。ハイボール缶は前年同期比114%となり市場を牽引しました。

RTS<sup>※1</sup>は、「澄みわたる」シリーズが好調に推移し、前年同期比122%となりました。

※1 RTS(Ready To Serve):グラスにそそぐだけでカクテルなどの本格的な味わいが気軽に楽しめるお酒

サントリービール(株)は、昨年4月の消費税率引き上げにともなう駆け込み需要の影響を受け、総市場<sup>※2</sup>が前年同期比91%程度と推定される中、1,405万ケース<sup>※3</sup>(前年同期比94.7%)の販売数量となりました。

「ザ・プレミアム・モルツ」は、“スーパープレミアムクラス”の「マスターズドリーム」を発売するなど、プレミアムビール市場に新たな価値を提案しました。新ジャンルでは「金麦」ブランドが積極的にマーケティング活動を展開しました。

ノンアルコールビールテイスト飲料No.1ブランド<sup>※4</sup>の「オールフリー」は、新たなフレーバーを限定発売するなどユーザー層の拡大に取り組みました。

※2 ノンアルコールビールテイスト飲料を含む

※3 大瓶換算(1ケース=633ml×20本)

※4 インテージSRI調べ 14年1月~14年12月(全国SM/CVS/酒DS/一般・業務用酒店計)

サントリーワインインターナショナル(株)は、カロリーオフ<sup>※5</sup>の新商品がご好評いただいた「酸化防止剤無添加のおいしいワイン。」ブランドや、国産ぶどう100%ワイン“日本ワイン”が引き続き伸長しました。輸入ワインでは、中高価格帯商品の販売を強化しました。

※5 当社主要国産ワイン平均値比

これらの結果、酒類セグメントの売上高は、2,177億円(前年同期比152.1%)となりました。

#### 〈その他セグメント〉

サントリーウエルネス(株)、サントリー(中国)ホールディングス有限公司、ハーゲンダッツジャパン(株)、(株)ダイナックなどが事業を展開しました。また、当社が保有していた(株)ティップネスの全株式を譲渡した影響もあり、その他セグメントの売上高は649億円(前年同期比91.0%)となりました。

なお、国内売上高は3,284億円(前年同期比96.0%)、海外売上高は2,248億円(同158.2%)となりました。

当社は、創業以来、積極的に事業を展開するとともに、創業の精神である『利益三分主義』に基づき、文化・社会貢献、環境活動などにも取り組んでいます。また、『水と生きる SUNTORY』というコーポレートメッセージのもと、社会と自然との共生を目指したさまざまな活動を展開しています。

東日本大震災の復興支援活動は、震災以降累計108億円の規模で、「漁業の復興支援」「未来を担う子どもたちの支援」「チャレンジド・スポーツ(障がい者スポーツ)支援」「文化・スポーツを通じた支援」を柱に継続して実施してきました。

環境活動では、水源涵養活動を展開している「サントリー 天然水の森」において、引き続き積極的な活動を展開、水源涵養面積はおよそ8,000ha となりました。2020年までに国内工場で使用する地下水量の2倍の水を育む面積である12,000haを目指していきます。また、子どもたちに水の大切さを伝える次世代環境教育「水育<sup>みずいく</sup>」を、海外では初となるベトナムで開始したほか、容器包装の軽量化や生産工程での節水・省エネルギー活動を推進しました。

## 2. 通期の見通し

2015年12月期の売上高は、2兆6,500億円(前年同期比107.9%)、営業利益1,930億円(同117.1%)、経常利益1,670億円(同108.6%)、当期純利益500億円(同130.3%)を予定しています。

なお、のれん等償却費を除いて計算した場合は、営業利益2,610億円(前年同期比120.9%)、経常利益2,350億円(同114.6%)、当期純利益1,080億円(同136.5%)となります。

(2015年2月16日発表の業績予想から変更はありません。)

## 四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

期 別 科 目	前連結会計年度 (2014年12月31日現在)	当第1四半期連結会計期間 (2015年3月31日現在)	増 減
	金 額	金 額	金 額
( 資 産 の 部 )			
I 流動資産	1,166,254	1,119,030	△47,223
現金及び預金	199,331	193,496	△5,835
受取手形及び売掛金	376,398	338,914	△37,483
たな卸資産	452,874	450,354	△2,520
その他	139,932	138,233	△1,699
貸倒引当金	△2,282	△1,968	314
II 固定資産	3,368,824	3,284,891	△83,933
1.有形固定資産	676,606	657,484	△19,121
建物及び構築物	185,309	182,830	△2,479
機械装置及び運搬具	253,480	249,961	△3,518
工具、器具及び備品	69,266	66,052	△3,214
土地	107,362	104,448	△2,913
その他	61,187	54,191	△6,995
2.無形固定資産	2,506,267	2,420,424	△85,842
のれん	1,118,703	1,062,209	△56,494
商標権	1,323,906	1,293,094	△30,812
その他	63,656	65,120	1,463
3.投資その他の資産	185,951	206,982	21,030
投資有価証券	122,396	133,657	11,261
その他	65,442	74,565	9,122
貸倒引当金	△1,888	△1,241	647
III 繰延資産	1,458	1,433	△24
資産合計	4,536,537	4,405,355	△131,182

(単位:百万円)

科 目	期 別	前連結会計年度 (2014年12月31日現在)	当第1四半期連結会計期間 (2015年3月31日現在)	増 減
		金 額	金 額	金 額
( 負 債 の 部 )				
I 流動負債		779,677	816,269	36,592
支払手形及び買掛金		144,436	135,120	△9,315
電子記録債務		104,848	96,715	△8,132
短期借入金		87,873	127,942	40,068
1年内償還予定の社債		10,900	59,680	48,780
未払酒税		51,561	32,609	△18,951
未払消費税等		22,236	14,690	△7,546
未払法人税等		22,297	11,062	△11,235
未払金		142,376	130,656	△11,720
未払費用		93,388	78,393	△14,994
賞与引当金		20,737	22,533	1,795
その他		79,021	106,864	27,843
II 固定負債		2,566,103	2,462,559	△103,544
社債		476,151	427,259	△48,891
長期借入金		1,470,386	1,418,788	△51,598
役員退職慰労引当金		684	618	△65
退職給付に係る負債		36,372	29,370	△7,001
その他		582,509	586,522	4,013
負債合計		3,345,781	3,278,829	△66,952
( 純 資 産 の 部 )				
I 株主資本		739,505	750,557	11,051
資本金		70,000	70,000	—
資本剰余金		△20,739	△21,213	△474
利益剰余金		692,849	704,376	11,526
自己株式		△2,604	△2,604	—
II その他の包括利益累計額		142,516	82,670	△59,846
その他有価証券評価差額金		20,322	25,044	4,722
繰延ヘッジ損益		1,239	△314	△1,554
為替換算調整勘定		132,379	69,301	△63,077
退職給付に係る調整累計額		△11,425	△11,360	64
III 少数株主持分		308,733	293,297	△15,435
純資産合計		1,190,756	1,126,526	△64,230
負債純資産合計		4,536,537	4,405,355	△131,182

## 四半期連結損益計算書

(単位:百万円)

期 別 科 目	前第1四半期連結累計期間 〔 自 2014年 1月 1日 至 2014年 3月31日 〕	当第1四半期連結累計期間 〔 自 2015年 1月 1日 至 2015年 3月31日 〕	増 減
	金 額	金 額	金 額
I 売 上 高	483,986	553,164	69,177
II 売 上 原 価	244,602	275,200	30,597
売 上 総 利 益	239,384	277,963	38,579
III 販 売 費 及 び 一 般 管 理 費	219,419	250,903	31,484
営 業 利 益	19,965	27,060	7,095
IV 営 業 外 収 益	4,545	3,570	△975
受 取 利 息	351	207	△143
受 取 配 当 金	3,456	113	△3,343
為 替 差 益	—	821	821
雑 収 入	738	2,428	1,690
V 営 業 外 費 用	3,400	8,360	4,960
支 払 利 息	2,386	6,876	4,490
雑 支 出	1,013	1,483	469
経 常 利 益	21,110	22,270	1,159
VI 特 別 利 益	148	903	754
固 定 資 産 売 却 益	126	882	755
そ の 他	22	21	△1
VII 特 別 損 失	2,316	3,949	1,632
固 定 資 産 廃 棄 損	924	941	17
組 織 再 編 関 連 費 用	1,237	2,229	991
そ の 他	154	779	624
税 金 等 調 整 前 四 半 期 純 利 益	18,943	19,224	281
法 人 税 等	7,595	12,133	4,538
少 数 株 主 損 益 調 整 前 四 半 期 純 利 益	11,347	7,090	△4,256
少 数 株 主 利 益	2,349	2,710	361
四 半 期 純 利 益	8,998	4,380	△4,618

# セグメント情報

## 1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、経営陣が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために定期的に検討を行う対象となっているものです。

当社は持株会社制を導入し、持株会社である当社の下、製品・サービス別の事業分野別に事業会社等を設置しています。各事業会社等は取り扱う製品・サービスについて国内及び海外の包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しています。

したがって、当社グループは事業会社等を中心とした製品・サービス別のセグメントから構成され、「飲料・食品事業」、「酒類事業」の2つを報告セグメントとしています。

(報告セグメントの変更等に関する事項)

前連結会計年度より、2014年10月1日に実施した組織変更に伴い、「ビール・スピリッツセグメント」を「酒類セグメント」に変更するとともに、従来、「その他」の区分に含められていたワイン事業を「酒類セグメント」に移管しています。

なお、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報については、組織変更後の報告セグメントの区分に基づき組替を行い、表示しています。

各報告セグメントと「その他」の区分に属する主な製品・サービスの種類は以下のとおりです。

飲料・食品…………… 清涼飲料、健康飲料、加工食品 他  
 酒類…………… ウイスキー、RTD、焼酎、ビール類、ワイン 他  
 その他…………… 中国事業、健康食品、アイスクリーム、外食、花 他

## 2. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

前第1四半期連結累計期間(自 2014年1月1日 至 2014年3月31日)

(単位:百万円)

	飲料・食品	酒類	その他	計	調整額(注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
売上高						
外部顧客への売上高	269,597	143,096	71,291	483,986	—	483,986
セグメント間の内部売上高 又は振替高	1,554	899	2,603	5,058	△ 5,058	—
計	271,152	143,996	73,895	489,044	△ 5,058	483,986
セグメント利益	13,995	6,265	6,767	27,028	△ 7,063	19,965

当第1四半期連結累計期間(自 2015年1月1日 至 2015年3月31日)

(単位:百万円)

	飲料・食品	酒類	その他	計	調整額(注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
売上高						
外部顧客への売上高	270,653	217,652	64,858	553,164	—	553,164
セグメント間の内部売上高 又は振替高	1,864	1,540	2,830	6,235	△ 6,235	—
計	272,517	219,192	67,689	559,399	△ 6,235	553,164
セグメント利益	13,952	14,711	6,100	34,764	△ 7,704	27,060

(注) 1. セグメント利益の調整額には、セグメント間取引消去、各報告セグメントに配分していない全社費用が含まれています。全社費用は、当社において発生するグループ管理費用です。それぞれの金額は次のとおりです。

前第1四半期連結累計期間	
セグメント利益の調整額	△ 7,063 百万円
各報告セグメントに配分していない全社費用	△ 7,079 百万円
セグメント間取引消去	16 百万円
当第1四半期連結累計期間	
セグメント利益の調整額	△ 7,704 百万円
各報告セグメントに配分していない全社費用	△ 7,722 百万円
セグメント間取引消去	18 百万円

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。